

# 特別支援学校（病弱教育）高等部第3年「10min. ボックス生活・公共」を活用した公民権教育

東京都立光明学園 病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

## 【実践報告の概要】

成人年齢が18歳に引き下げられたことを受けて、高3の生徒に対して、学校では「公民権教育」、「消費者教育」を授業の中でどう取り組んでいるか非常に注目されている。本校病弱教育部門高3では、既習の日本史・世界史・地理・現代社会の復習をする「地歴・公民演習」という科目を学校独自で設定して行っている。在籍生徒5名で、選択授業ではあるが、全員が選択しているため、この授業で、公民権教育を行う計画を立てた。NHK for School「10min. ボックス生活・公共」と「アクティブ10 公民」を視聴して公民権について考える機会とした。(11時間扱い)【キーワード】 #公民権教育 #選挙権

## 【取組の具体】 準ずる教育課程高3 現代社会分野 単元名「公民権教育」

本時6/11『選挙って何のため？～選挙と選挙権～』

**ねらい** 18歳になれば高校生でも選挙に参加できるようになった今、選挙の歴史を振り返りつつ投票する意義や、選挙と中高生の生活とのつながりについて考える。

1. 公民権教育について本日のねらいを確認する。
  - ・選挙って何のためにあるのだろうか？
2. NHK for School「10min. ボックス生活・公共」第5回『選挙って何のため？』を視聴する。
  - ・一斉視聴、同サイトの“今回のまとめ”をダウンロード、コピーして配布。
3. ワークシートに沿って各自で考え、記入する。
  - ・どうして選挙年齢を引き下げられた？
  - ・誰もが投票できるようになったのはいつごろ？
  - ・身近な若者の生活と選挙からわかること
- 選挙や選挙権は何のためにある？
4. 各自で考えたことを共有する。
  - ・ワークシートに沿って1つずつ意見を出していく。
5. 選挙や選挙権は何のためにあるのだろうか。
  - ・互いに意見を出し合い、共有する。
6. 投票に行かない理由、行く際の不安を挙げる。
  - ・番組から発展させて投票に行かない理由や行く際の不安なことをできるだけ出し合って考えさせる。
7. 本時の感想を各自でまとめる。(発表はしない)
  - ・感想は毎回書いているワークシートに書く。
8. 小論文対策として思考の流れに沿ってまとめる。
  - ・時間があったら、授業の流れと同じような手順で文章をまとめて小論文にする練習をする。



web サイトよりダウンロードした“今回のまとめ”



授業の様子

## 【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「10min. ボックス生活・公共」

「10min. ボックス生活・公共」は、現代社会で生きる中高生に、自らの心と体を大切に、尊重する気持ちの大切さを伝えると同時に、社会参画に必要なこととはなにかを「自分ごと」として考えてもらおうという番組です。(同サイト番組紹介より引用)  
○中高生向けの番組で、出演者のDAIGOやナレーションの平野文が親しみやすく高校生に受け入れやすい。  
○現代社会の授業と違い、知識だけでなく自分の身近な生活として自分事として捉えることができる。  
○番組の順番に沿って考えることでアクティブ・ラーニングの進め方を知ることができる。

## 【本実践における工夫点】

公民権教育のねらいを意識する

- ・選挙を前向きに捉えられるように進める。
- ・生徒が感じている、投票に行きたくない、行くのが不安、という気持ちを汲み取り、生徒同士で解決できるように配慮する。

ワークシートの効果的な活用

- ・普段の授業で使っている形式で今回用に作ったワークシートと、同サイトが提供する専用ワークシートを組み合わせ、思考の流れや活動の手順がよくわかるように提示する。後日の振り返りや欠席した生徒のために「今回のあらすじ」もダウンロード、プリントアウトして配布する。

小論文対策として思考や記述する手順を明示する

- ・番組のテーマを400字程度で小論文が書けるように、記述の展開を提示して、それぞれの部分を40～50字でまとめる練習をして、論理的に記述が展開できるように手順を明示する。それが慣れてきたら1200～1600字でも同様に行っていく。

## 【本実践の成果と課題】

- 公民の教科としてと、公民権教育としての両方のねらいにうまくマッチした番組で、ねらいに合わせて適宜視聴させると非常に効果的である。
- 現代社会では今までも行ってきた内容だが、年度途中で「公民権教育」という名で実践することになったので、当初は場当たりに進めたが、来年度は年間指導計画を作成して計画的に進めようと思う。